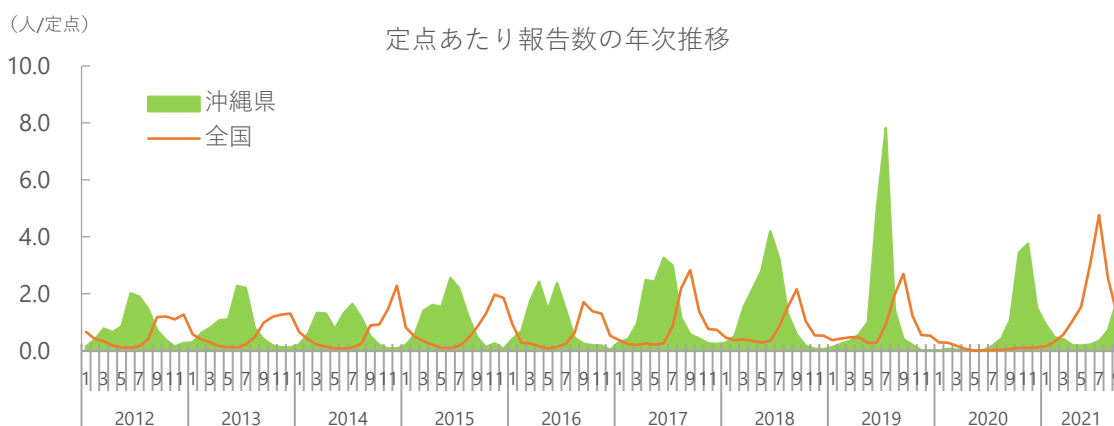


(1)どんな病気ですか

- RSウイルス（Respiratory syncytial virus）の感染後、4～6日間の潜伏期を経て、発熱や鼻汁、咳などを特徴とする呼吸器の感染症です。
- 生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が感染するとされています。
- 症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々で、生涯にわたり何度も感染と発病を繰り返しますが、乳児期早期（生後数週間～数ヶ月間）や基礎疾患のある者は重症化する場合があります。
- くしゃみや咳などのしぶきを吸い込むことによる感染（飛沫感染）や、ウイルスが付着した手指や物品に触れたり、なめたりして感染（接触感染）します。

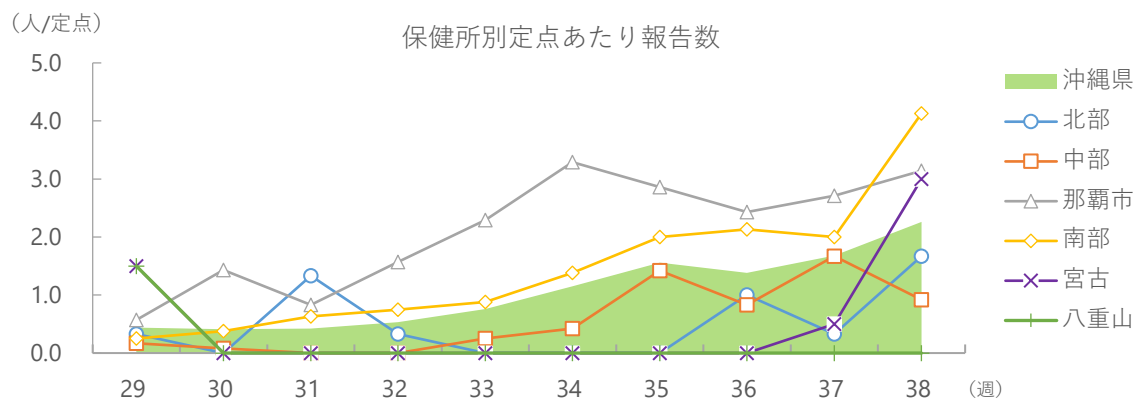
(2)定点あたり患者報告数（県・全国）の推移（2012年-2021年第38週）

沖縄県では、これまで春～夏にかけて流行が見られましたが、2020年、2021年は秋頃に流行が見られています。全国では、これまで秋頃に流行が見られましたが、2020年は目立った流行は無く、2021年は過去10年で定点あたり報告数が最も多い流行が夏に見られました。

**(3)保健所別定点あたり患者報告数（直近10週）**

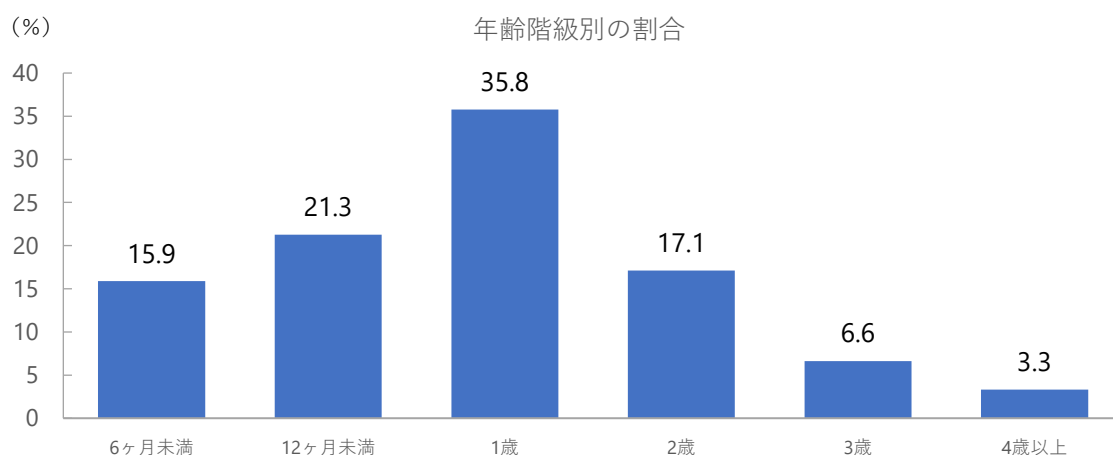
沖縄県の第38週（9月20日～9月26日）の1医療機関あたりの報告数は2.26人（定点医療機関34カ所、報告数77人）となっており、ここ数週間で増加傾向がみられます。

なお、第38週における保健所別の定点あたり報告数は、南部保健所が4.13人で最も多く、次いで那覇市保健所3.14人、宮古保健所3.00人、北部保健所1.67人、中部保健所0.92人となっており、本島と宮古地域を中心に流行が見られます。



(4) 年齢階級別患者割合(2021年第1週-2021年第38週)

沖縄県の年齢階級別では、1歳が最も多く35.8%、次いで12ヶ月未満が21.3%、2歳が17.1%となっています。報告数の約7割を1歳以下が占めています。



(5) 治療及び予防について

治療は対症療法が主となります。飛沫感染に対しては3密を避ける、マスクの着用、咳エチケットの励行、接触感染に対しては手洗いや、消毒剤(アルコールや塩素系)による手指の消毒が有効です。

参考

国立感染症研究所「RSウイルス感染症とは」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansenohanashi/317-rs-intro.html>

厚生労働省HP「RSウイルス感染症Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html